

循環器科

循環器科の概要

日本はかつてない高齢化社会を迎え、循環器疾患患者は増加しています。循環器疾患を併存することで他科より相談を受けることも多く、循環器科の果たす役割はますます大きくなっています。当科の研修の目標は、あらゆる循環器疾患の診断から基本的な治療方針決定の過程、高度専門医療まで系統的に経験し、循環器疾患の基本的な臨床能力を身に付けることです。臨床研修では指導医とともにチームを形成し、入院患者さんを担当し、循環器内科に特有な病歴聴取、聴診などの理学所見の取り方を習得し、問診・身体所見から適切な検査・治療計画を行います。非侵襲的検査の手技習得が重要と考え、心電図や胸写の読影や心エコー実地研修に力を入れています。心エコーについては一人で実施できる技術を習得します。毎日行われる心臓カテーテル検査ではチームの一員として参加し、検査支援を行いつつ、担当症例には指導のもと自ら穿刺や右心カテを実施します。救急疾患については、ER搬送時の初期診療から集中治療室での呼吸・循環や輸液の管理を指導医とともに学びます。一般病棟では、薬物治療、心臓リハビリに加えて、心血管イベントの二次予防の観点から必要な生活指導を患者に行います。貴重な症例は研究会や学会で筆頭演者として発表します。急性冠症候群など循環器救急疾患は初期対応が遅れると致命的になる疾患であり、将来の専門とは関係なく医師である限り遭遇する可能性があります。循環器科の研修を行うことで、将来の専門に関係なく、必ず役立つ臨床能力が身に付きます。

皆様の研修参加をスタッフ一同お待ちしております。

◆ 検査件数ならびに治療実績(2025年度)

経胸壁心エコー	6504
経食道心エコー	58
心肺機能検査 (CPX)	11
心筋シンチ	136
冠動脈CT	606
心臓MRI	48
冠動脈造影検査	505
冠動脈形成術 (PCI)	257
カテーテルアブレーション	148
心臓電器デバイス植え込み	124

疾患別内訳(2025年度入院症例)

年間入院患者数	1078
急性心筋梗塞	120
心不全	304

